

第4回湿原再生小委員会

1. 幌呂地区の変遷と現状

- 1-1. 幌呂地区の歴史
- 1-2. 幌呂地区の変遷
- 1-3. 幌呂地区の現状

2. 幌呂地区で生じた現象と幌呂地区の課題

- 2-1. 幌呂地区で生じた現象と課題の関係
- 2-2. 幌呂地区で生じた現象
- 2-3. 幌呂地区の課題

3. 幌呂地区の湿原再生目標の設定

- 3-1. 幌呂地区湿原再生区域の現状分析
- 3-2. 幌呂地区のリファレンスサイトの設定
- 3-3. 湿原再生区域とリファレンスサイトの現状
- 3-4. 幌呂地区の湿原再生目標の設定
- 3-5. 湿原再生区域隣接地での農地防災事業計画について

4. 広里地区の湿原再生

- 4-1. これまでの経緯と検討項目
- 4-2. 隣接河川の堰上げ検討
- 4-3. 地盤掘り下げ試験
- 4-4. ハンノキ伐採試験

1. 幌呂地区の変遷と現状

1-1. 幌呂地区の歴史 (1/5)

1885(M18) 下雪裡に入植

明治末～大正初め 馬鈴薯、稲黍、燕麦、とうもろこし、蕎麦、南瓜、甜菜、豆類、等の作付けが試みられる。結果、天候の影響を受けにくい甜菜が奨励される。稲作への関心が強く、多くの人々が作付けを試みる。

1920(T9) 茂雪裡で酪農が始まる。その後、レッドクローバー、デントコーン、オーチャードグラス等の飼料作物が作付けされるようになる。

1931(S6) 冷水害が続いたため、稲作を断念、酪農が振興される。

1935(S10) 釧路湿原が「釧路丹頂鶴繁殖地」として国の天然記念物に指定(2,700ha)

1949(S24) 農林省の調査員が釧路の酪農を酷評する。

「釧路主畜農業は今日尚粗放自然的経営形態を示している。従って主畜農業経営と称すものは今日までなく、それは今日以降に於いて出来上がってくるであろう。」※出典:「鶴居村史」

その後、農地造成が進められるものの、経営規模の零細性を打破するには至らず・・・

[1960年の戸当たり耕地面積:5.0ha、乳牛飼養頭数:5頭]

1965～1968 国営農地開発事業「幌呂地区」調査計画

[1965年の戸当たり耕地面積:7.7ha、乳牛飼養頭数:10頭]

(1967 釧路湿原、天然記念物「天然保護区域」に指定変更及び拡大(5,600ha))

1970～1985 国営農地開発事業「幌呂地区」実施

1-1. 幌呂地区の歴史 (2/5) 明渠排水路工事の歴史

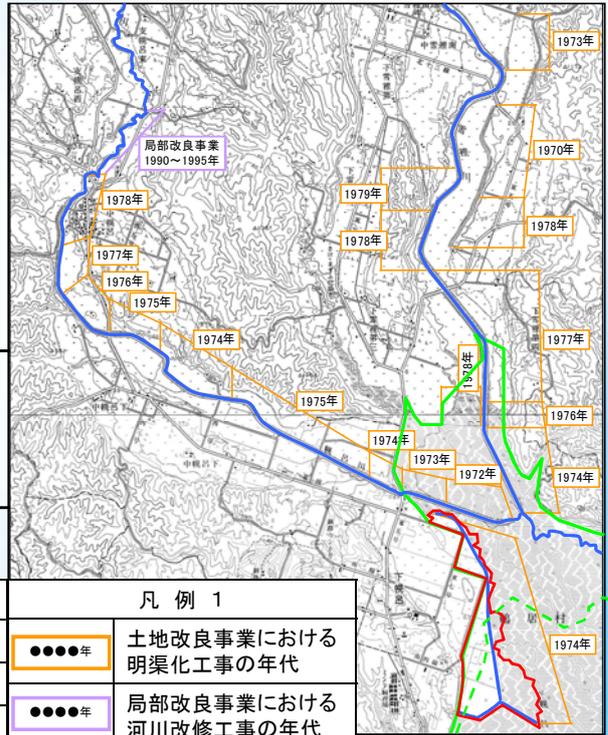
生活・生産基盤形成のため、1970年代から80年代にかけて各種土地改良事業が実施された。それらのなかで、河川の明渠排水路化工事は1980年頃までにほぼ完了した。

明渠排水路工事の歴史

●土地改良事業において実施された河川の明渠化工事は、1970年に開始され1980年頃までにほぼ完了した。

幌呂川は、1972～1974年の間に湿原流入部で雪裡川へ接続するルートへ切り替えられた。

1974年に旧幌呂川に隣接する1号支線排水路が整備された。



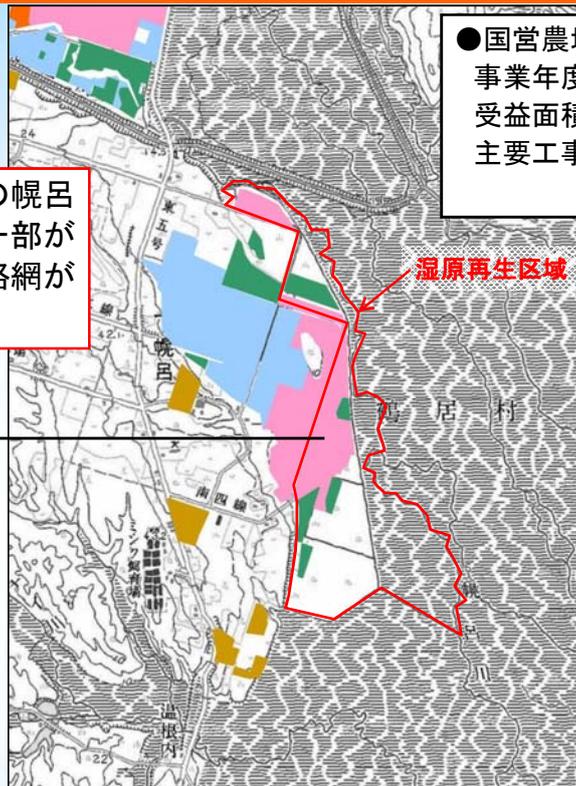
1-1. 幌呂地区の歴史 (3/5) 農地開発の歴史

国営農地開発事業「幌呂地区」をはじめ各種土地改良事業が1970年代から1980年代にかけて実施された。

農地開発の歴史

当事業により、現在の幌呂地区湿原再生区域の一部が農地造成され、排水路網が整備された。

●国営農地開発事業「幌呂地区」
事業年度：1970～1985年
受益面積：1,255ha
主要工事：農地造成(1,255ha)
排水路(6条、17.4km)



農地造成年度 凡例	
	: 1971～1972 年度
	: 1973～1974 年度
	: 1975～1976 年度
	: 1977～1978 年度
	: 1979～1980 年度
	: 1981～1985 年度

1-1. 幌呂地区の歴史 (4/5)

1970～1985 国営農地開発事業「幌呂地区」実施

[1975年の戸当たり耕地面積: 27.7ha、乳牛飼養頭数: 36頭]

[1985年の戸当たり耕地面積: 49.2ha、乳牛飼養頭数: 69頭]

(1980 釧路湿原がラムサール条約に登録(5,000ha))

(1981 // 旧河川区域指定)

1987 // 国立公園指定(26,900ha)

1995～99 国営総合農地防災事業「鶴居地区」調査計画

1999 河川区域の拡大計画が示される。

地元との協議の結果、新たに河川区域に入る農地 48haを防災事業から「地区除外」
→湿原再生事業「幌呂地区」の用地に充てられることに。

《理由》 河川区域となる農地の将来の利用見通しなどをふまえ、「湿原の保全」に
寄与することについて、地域農家の合意が形成されてきた。

2000 河川区域拡大の告示

2006 国営農地防災事業「鶴居第2地区」着工

1. 幌呂地区の 変遷と現状

1-1. 幌呂地区の歴史 (5/5)

1935 釧路湿原が天然記念物指定

1967 天然記念物指定変更および区
域拡大

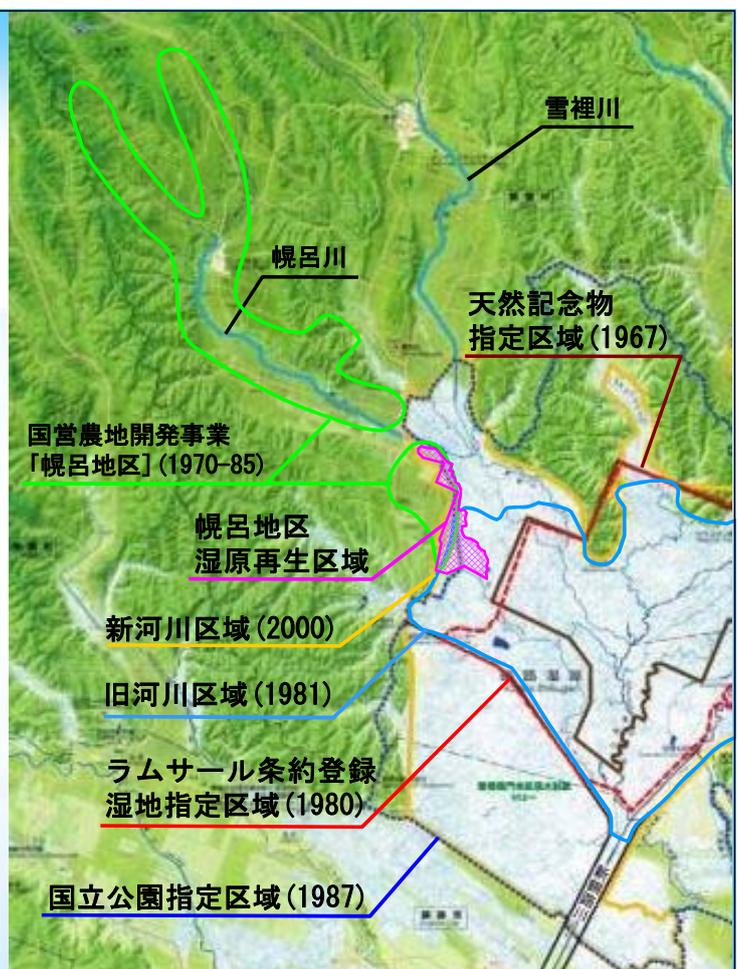
1970～1985 国営農地開発事業
「幌呂地区」実施

1980 釧路湿原がラムサール条約
登録

1981 旧河川区域指定

1987 釧路湿原が国立公園指定

2000 河川区域拡大の告示



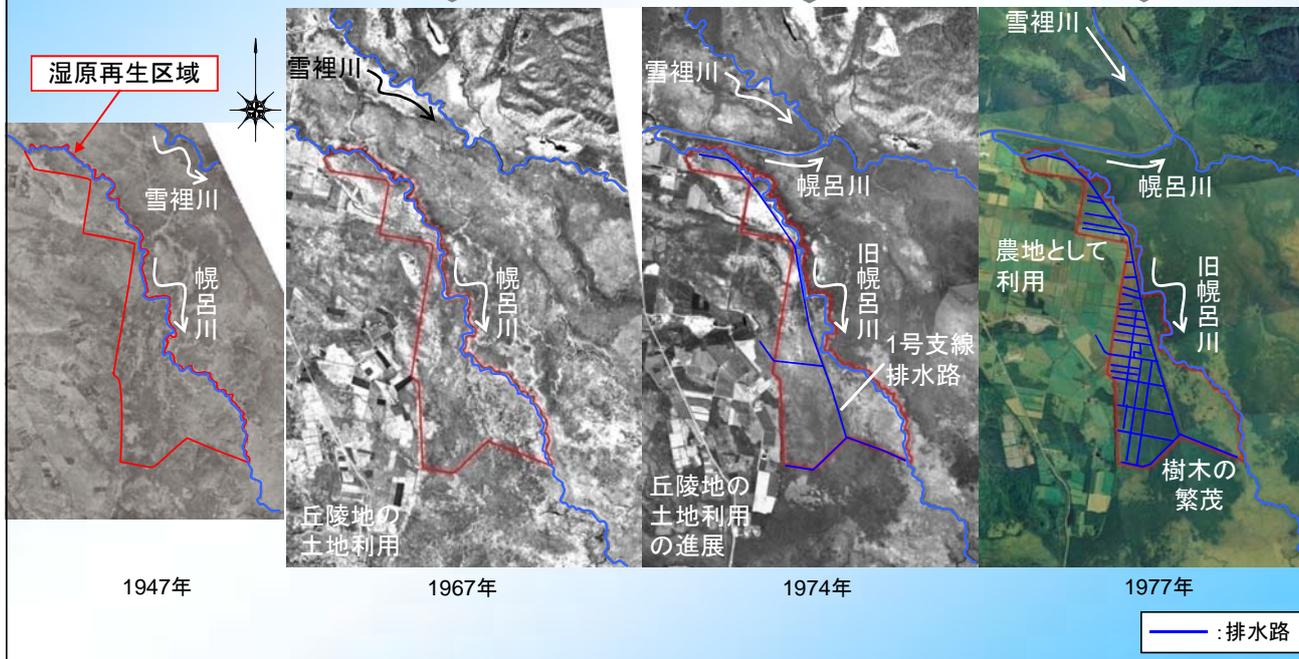
1-2. 幌呂地区の変遷 (1/2)

幌呂地区の河川および排水路は、1977年には概ね現在の状況まで整備された。

○1947年と比較すると、丘陵地の土地利用が少し進んでいるが、それ以外は大きな変化は見られない。

○幌呂川が切り替えられ、1号支線排水路が整備された。
○丘陵地の土地利用も進展している。

○現在の雪裡川が掘削され、排水路網が整備された。
○湿原再生区域の西側は農地として利用されている。



1-2. 幌呂地区の変遷 (2/2)

1980年以降は河川、排水路、土地利用状況に大きな変化は認められないが、時間の経過に伴って幌呂地区の周辺には樹木が繁茂していった。

○1980年以降は、河川、排水路、土地利用状況に大きな変化は見られない。

○湿原再生区域の周辺は樹木が繁茂し、ヨシ・スゲ類生育地の面積は減少している。

